



外国文献紹介

2 管球搭載型 CT 装置を用いた冠状動脈瘻の術前評価について

Shi K et al : Preoperative evaluation of coronary artery fistula using dual-source computed tomography. Int J Cardiol 228 : 80-85, 2017

筆者らは、冠状動脈瘻の患者 34 例に、形態学および定量的評価を目的として、術前に 2 管球搭載型 CT 装置 (DSCT) による検査を実施し、手術所見と比較検討した。その結果、左冠状動脈の枝から流出している症例が 15 例 (44.1%)、右冠状動脈の枝からの流出が 9 例 (26.5%)、両冠状動脈の枝からの流出が 10 例 (29.4%) に認められた。左前下行枝からの流出例が最も多く、流入部位は肺動脈本幹が最も多くみられた (41.2%)。また、右冠状動脈から流出している場合には、同動脈が拡張しているケースが多くみられた。DSCT はしばしば合併するプラークや冠状動脈瘤の検出にも有用であった。そして、DSCT は冠状動脈瘻の形態学および定量的評価を非侵襲的かつ正確に行ううえで有用な手段と考えられると述べている。

瀬戸一彦